

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100107		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うららびより奥町 1F		
所在地	一宮市奥町字内込45-11		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200107-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の小規模多機能型居宅介護と合同でイベントを開催したり、お互いの利用者が行き来したりして、協力関係を築きながら取り組んでいる。
介護体操、音楽療法に続き、毎月パン教室も合同で行い、入居者も楽しみにしている。
小規模を利用していた方が入居された後、小規模利用者がグループホームに遊びに来られるなど、利用者同士の交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには、建物に隣り合わせて小規模多機能を併設していることで、利用者の身体状態等に合わせたホームへの移行が可能である。利用者にとっては生活環境を大きく変えることなく、ホームへ移行することができる利点がある。小規模多機能と連携した取り組みについては、毎月の避難訓練の実施にもつながっており、様々な場面を想定しながら、職員間で連携した取り組みが行われている。地域の方との交流についても、ホーム開設以来、ホームの夏祭りの行事の際には、多くの地域の方の参加が得られており、地域の方にホームを知ってもらう機会につながっている。日常生活においても、一人ひとりに合わせた介護計画を作成しており、職員間での共有につなげている。また、定期的な外出行事の取り組みが行われており、職員間で外出先を検討しながら、様々な場所への外出行事が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関やリビングに運営理念を掲示している	ホーム名でもある「うらら」を加えた理念をつくっており、利用者に日常生活を笑顔で過ごしてもらうことを目指した内容となっている。また、理念をホーム便りにも掲載しており、家族にもホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小学校の学芸会や高校の文化祭に行ったり、夏祭りには地域の方々に来ていただいている。	地域の小学校との交流の機会をつくっており、地域貢献につながる取り組みが行われている。また、併設の小規模多機能とも連携しながら、合同で開催している夏祭りには多くの地域の方の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭りに参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員、ご家族様、ご利用者様の意見をうかがったり、市役所介護保険課の指導を受けている。	運営推進会議の際には、多くの写真を掲載した資料を用意しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議に複数の家族の参加が得られており、交流の機会にもつながっている。	現状、地域包括支援センター職員の会議への参加が得られていない。困難事例等に関する情報交換等、必要な連携にもつながるため、ホームからの働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	電話などで疑問点などを尋ねるようにしている。	市の担当部署とは、併設の小規模多機能の職員とも連携しながら情報交換等の取り組みが行われている他、市内の介護事業所が集まる連絡会にも参加している。また、地域包括支援センターも参加しているケアマネ会にも参加しており、情報交換につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議の際、勉強会を行い、職員の意識付けに努めている。	ホーム内には施錠等の対応を行っておらず、職員間で連携しながら利用者の見守りが行われている。また、外部研修を受けた職員によるホーム内での研修を行っており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月、勉強会や研修などに行く機会があり、虐待防止についても学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議の議題に挙げるなどして、制度の理解と支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は重要事項説明書、契約の内容を口頭で読み上げながら説明し、疑問点にも答え理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置している。	ホームで行われている行事の際には、家族も参加しており、交流の機会にもつながっている。家族からの要望等については、管理者の他にも職員複数での対応が行われている。また、職員間で分担しながら、利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一度の職員会議、フロアリーダー会議を開催し、改善できる部分と改善しなければならない部分から順に意見の反映をしている。	ホームでは、ユニット会議と全体会議が行われており、職員からの意見等を管理者を通じて、運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談の機会がつけられており、職員一人ひとりの把握が行われている。	今年度、管理者が交代しており、新たな管理者のもとで、職員一人ひとりの面談が行われている。職員間で意見交換を行いながら、より良いホームにつながる事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフト勤務の時間帯や内容、利用者様の生活を考慮しつつ改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部での研修を促し、学んだことを勉強会で他の職員に伝達するようにし、職員会議ではテーマを決め勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	サービス事業者連絡会やケアマネ会に参加し交流するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の際は、家族様からの話になりがちである。ご本人には入居後に聞くことが多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様からの相談は随時お聞きし、少しでも不安を取り除き安心していただけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の要望ばかりではなく、ご本人や家族にとってグループホームが適切かどうか見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に生活している意識を持ち、入居者様の生活を尊重しながらフォローし生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設の行事参加、推進会議への出席の依頼など連絡を密にとっている。本人の状態の変化も必要に応じて連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様の面会や外出、外食もあり、昔の友人が面会に来られたり電話がかかってくることもある。	利用者により、入居前からの関係の方との交流が継続されており、友人、知人がホームに訪問する機会が得られている。交流を通じて、新たな取り組みもつながっている。また、家族との交流の機会もあり、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の相性や性格を把握し、必要があれば職員が入って良好な関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、新しい施設へ面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を随時聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は説明して納得していただく。	職員間で担当制も活用しながら利用者の把握が行われており、定期的な担当職員による意向等の報告が行われている。日常的にも利用者別に整理された申し送りノートによる情報の共有も行われている。また、毎月のユニット会議を通じた検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居申し込み時の面談や契約時に本人の生活環境やサービスの利用経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の面談や入居後の生活を見て把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りや会議の際に確認し反映に努めている。	介護計画は6か月毎に見直されているが、見直しの際には、担当職員による利用者に関する報告が行われている、一人ひとりに合わせた計画の内容につなげている。また、モニタリングを3か月で実施しており、変化の把握が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ間の申し送りノートや日常生活記録等に記入し、情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族のそのときの要望に沿えるよう、柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所への散歩やボランティアの方に来ていただいたり、音楽療法・リハビリ体操・パン教室の講師を招いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・ご家族様の希望を聞き、ご希望の主治医に対応している。	ホーム協力医による定期的な訪問診療が行われている他にも、ホーム職員による医療機関への受診支援も行われている。また、グループホーム専従の看護職員が勤務しており、利用者に関する健康チェックと医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、治療状況等の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に施設としての考え方を話しし、ご家族の意見・希望をお聞きし、状況に応じた対応を心がけている。	利用者の身体状態やホームで出来ることを確認しながら、可能な支援は行われており、過去にはホームでの看取り支援も行われている。協力医とも連携しており、家族との話し合いにもつなげている。また、職員研修の機会もつくりされている。	利用者のホームでの看取り支援から期間が開いていることもあるため、職員間で出来る事と出来ない事を確認しながら、利用者へのより良い支援につながる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署立会いのもとAEDなどの講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月防災訓練を行っている。	併設の小規模多機能とも連携しながら、様々な場面を想定した毎月の避難訓練の実施が行われている。また、消防署の立ち合いも得られており、必要な助言等にもつながっている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	新たに水害を想定した訓練の実施も行われている。ホームのすぐ近くには大きな河川があるため、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを意識し、対応するよう心がけている。	法人の職員指針を示しながら、職員による対応に関する、管理者やリーダーからの日常的な注意喚起等の取り組みが行われている。また、接遇面に関する研修の取り組みも行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の会話で希望を引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個性や個人のペースを大切に、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じ、ご家族に持って来ていただいたり、スタッフといっしょに買い物に行き購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の下膳をできるだけ自分でやらせている。	法人の管理栄養士によるメニューに基づきながら、利用者の好みや嗜好等にも合わせた配慮も行われている。利用者も出来る事に参加する取り組みも行われている。また、日常のおやつ作りも行われており、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分補給についてはいつでも飲めるよう見えるところにお茶を常備して、飲みたいときに飲むことができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、食後の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレの利用状況を確認し、利用が無ければ声かけをして誘導をしている。	利用者全員の排泄記録を残しており、一人ひとりに合わせたチェックや日常的な申し送りが行われている。看護職員とも医療面に関する連携を行いながら、日中と夜間で対応を変える取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	おやつにバナナを提供したり、散歩の声かけをし、解消できないときは下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決まっているが、体調にあわせて入浴日の変更をしている。	利用者は、1日おきの週3回入浴しており、時間も午後の夕方に近い時間に入浴している。併設の小規模多機能に機械浴があり、身体状態等に合わせた対応も行われている。また、利用者により、温泉施設での入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の状態を把握し、本人の意思を尊重し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセットは看護師が行っている。薬の説明書をいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の生活歴や趣向・残存能力を鑑みて、その人に応じた楽しみを見出すよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や散歩・喫茶店へ行ったり、年2回の遠足や季節の花を見に行くなどを実施している。	ホームでは、日常的に外出の機会をつくっており、近隣の散歩や買い物外出をはじめ、地域にある喫茶店への外出支援等も行われている。また、ユニット毎に外出先を検討しながら、季節に合わせた公園等への外出や県外への外出行事も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には個人の金銭は管理させていただいているが、財布の中に小銭を持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話したいと言われたら、リビングの電話を使用し連絡してもらっている。手紙でやりとりをしている方がおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じられる壁飾りをスタッフといっしょに作っている。	ホーム内は、落ち着いた色彩の壁紙等、利用者にとって静かに過ごすことができる環境でもある。ゆったりとした広さのリビングにはソファが置かれてあり、利用者の寛ぎの場所になっている。また、季節に合わせた飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室のほかにもソファや和室があり、気のあう人と過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいただいている。	居室は和風の空間となっており、利用者にも馴染みやすい居室環境でもある。利用者により、使い慣れた家具類、家族の写真、趣味の物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを取り付け、安全に歩行できるよう配慮している。		